

ペツォッタイト・キャッツアイのチューブ状インクルージョン

2002年マダガスカルのパグマタイトなどから産出したピンク色を帯びた鉱物は(写真1)は当初、ピンク・ベリルとして取引された。また色調が果物のラズベリーに似ていることから「ラズ・ベリル」の俗称で呼ばれ注目された。

その後の分析でベリルの組成： $\text{Al}_2\text{Be}_3(\text{Si}_6\text{O}_{16})$ とは異なり組成： $\text{Cs}[\text{Be}_2\text{li}]\text{Al}_2\text{Si}_6\text{O}_{16}$ である事が分かった。当該石はセシウムやリチウムが多く含まれ、またベリルに比べ比重や屈折率が少し高いことから2003年に国際鉱物学会(IMF)は新鉱物と認定し、イタリア人研究者のFederico Pezzotta博士に因んでペツォッタイト(Pezzottait)と命名された。ペツォッタイトの中でもペツォッタイト・キャッツアイ(写真2)はチューブ状インクルージョン(写真3)の発達によるシャトヤンシーが明瞭である。



(写真1)



(写真2) シャトヤンシー



(写真3) チューブ状インクルージョン

写真撮影 文：渥美郁男

